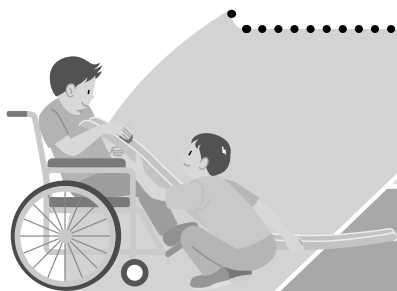


“ボッチャ”って知ってる？

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.146
今号の特集から

障がいのある人もない人も、
スポーツをとおして
いろんな人と交流しよう！



ボッチャとは？

重度の身体障がいがある人のためにヨーロッパで考案された競技で、ルールは冬のスポーツであるカーリングに似ています。

最初に投げたジャックボール（目標球）とよばれる白いボールに、赤と青の6球ずつのボールを交互に投げたり転がしたりして、どれだけ近づけるかを競います。

障がいのために自分でボールを投げられない選手は、介助者を使ってランプとよばれる補助具を使ってボールを転がしたりできます。

そのため、ほぼ全身が動かせなくても指や口にくわえた棒でボールを押し出したり、目線などで介助者に意思を伝えられたりできれば、ボッチャに参加できます。

みんなでできるスポーツ ボッチャは楽しい競技です

長野県ボッチャ協会
永井匠 さん



ボッチャは重度な障がいのある人ができるよう考案されたスポーツで、正確な投球と戦略が必要な競技です。

障がいのある人も高齢者も子どもも、体力がなくてもだれでも楽しむことができます。特別支援学校で運動が苦手な勝ち負けの経験がない子も、悔しいとかうれしい思いを経験でき、自分で考える力を養うきっかけにもなります。

長野県ボッチャ協会では、東御市や松本市のスポーツクラブでの練習のほか、各地の社協の研修や学校のPTAレクなどでの講習会の開催、用具の貸し出しをしています。メンバー、指導者も募集中です。

問い合わせ先

長野県ボッチャ協会事務局

電話：090-8846-4886 担当：高野さんまで



東御市で行われた「ボッチャの体験会と指導者向けセミナー」。この日は2016リオパラリンピックで団体銀メダルを獲得した杉村英孝選手と廣瀬隆喜選手、河合俊次監督ら日本代表チームが訪れ、約200人の参加者がボッチャを楽しみました。記事・写真提供：東信ジャーナル社



地域でボッチャを普及

運動・スポーツのバリアフリーを 東御市の取り組み

障がい児者への健康づくり運動実施支援事業

東御市では、「『みんなの健康×スポーツ』実行委員会」を組織し、ユニバーサルスポーツであるボッチャの普及などをとおして、スポーツのバリアフリー化と地域のつながりづくりを進めています。

東御市「『みんなの健康×スポーツ』実行委員会」の構成団体

当事者、保護者団体、社協等の福祉団体、体育協会、スポーツ推進委員、障がい者スポーツ指導員、行政や教育委員会、研究機関などが協力。

〔事務局〕（公財）身体教育医学研究所

開催内容

- 地域のいろいろな人々が集う機会に合わせたスポーツ体験教室などイベントの開催
- ユニバーサルスポーツの場づくりへの支援
- 障がい者のスポーツ参加のきっかけづくり支援



ボッチャのほか、フライングディスク、ダブルダッチ、ラダーゲッターなどの競技体験会も開催しています。

スポーツをとおして、だれもが関わりを持ち、排除されない地域づくりのきっかけにできればと願っています。今後、障がい者スポーツの指導員の育成にも力を入れていきます。

この取り組みによって、障がいのあるなしに関わらず、今まであまり身体を動かす場に参加しなかった人たちが、重度要介護の方までもがユニバーサルスポーツを実践する光景が定着してきました。

すべての人への運動・スポーツのバリアフリーが、健康寿命の延伸に貢献することを期待しています。



公益財団法人身体教育医学研究所
所長 岡田真平 さん



東御市社会福祉協議会
高岡久章 さん

地域における障害者スポーツ普及促進事業（文部科学省 平成27年度～）

身近な地域における障害者スポーツ環境の整備

2011年に制定された「スポーツ基本法」や、それにもとづく「スポーツ基本計画」には、障がいの有・無にかかわらず、すべての人が積極的にスポーツをおこなえる環境をととのえるべき」といった内容が盛り込まれました。

2020年の東京パラリンピック競技大会開催に向け、文部科学省では、「東京大会を契機として、障害者への理解が一層進み、障害者が身近な地域においてスポーツに親しむことができる社会の実現に向けて、今、障害者スポーツの普及促進の取組が求められている」としています。

障害者と健常者が一緒になってスポーツ活動を

障がい者スポーツを推進することは、「障害者の生きがいや生活の質の向上、自立や社会参加の促進」し、「スポーツに苦手意識を有する子供や高齢者等にもスポーツへの参画を促し、障害者と健常者が一緒になりスポーツ活動を実施しやすくなるなどの効果」があるとしています。

スポーツを通じて定期的に体を動かすことは、地域の健康寿命を延ばし、地域社会の活性化、共生社会の構築といった社会全体の幸福につながります。

スポーツ関係者と障害福祉関係者が、各地域で連携・協働体制を構築し、障害の有無に関わらずスポーツの振興を一体的に図る。共生社会の実現にも寄与。

障害者スポーツ振興体制



共生社会の実現

さまざまなちがいを持つ人同士が支え合って生きていく社会を、共生社会といいます。

障がいの有無、世代、国籍といった「多様性」を受け入れ、「調和」させる場として、2020年のパラリンピック東京大会は、共生社会を実現するきっかけになることが期待されています。



Special Olympics

スペシャルオリンピックスとは？

スペシャルオリンピックス(SO)とは、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。

スペシャルオリンピックスは非営利活動で、運営はボランティアと善意の寄付によっておこなわれています。

活動に参加する知的障がいのある人「アスリート」、その家族「ファミリー」、そして「ボランティア」、すべての人がスペシャルオリンピックス活動の参加者です。

性別、年齢、スポーツのレベルを問わず、共に成長し、共に楽しむ、そしてその経験を分かち合うことが重要と考え、世界いつでもどこでも活動しています。

スペシャルオリンピックス(SO)の効果



SOの特徴

- 継続的なトレーニングと成果の発表の場である競技会を提供
- アスリートひとりひとりの競技能力に合わせてプログラムを実施
- 能力を十分に発揮できるようディビジョニング（グループ分け）を実施
- 頑張った全てのアスリートを称え全員を表彰
- ユニファイドスポーツ®の展開

参加資格：スペシャルオリンピックスのスポーツトレーニングには、6歳以上で知的障がいがあり、ゼネラルルールで定める参加登録を済ませている全ての人に参加することができます。（ただし競技会は8歳以上）

共生社会を目指して

ユニファイドスポーツ®

ユニファイドスポーツ(Unified Sports®)は、知的障がいのある人(アスリート)と障がいのない人(パートナー)が、トレーニング・競技会にチーム(個人競技の場合は2人1組)として参加する競技形態。アスリートとパートナーは同程度の年齢と競技能力でチーム(組)を構成し、トレーニングや競技会に参加します。

ユニファイドスポーツ®は新しいことに挑戦するアスリートとパートナーにとって、スポーツに参加する機会を増やしてくれる大切なプログラムです。



第1回全国ユニファイドサッカー大会で活躍するSO長野チーム

スペシャルオリンピックス日本・長野 ホームページ
<http://www.son-nagano.com>

スペシャルオリンピックス日本 公式サイト
<http://www.son.or.jp>

SOのアスリートの活躍する姿を
小中学生の皆さんに知ってほしいです

公益社団法人 スペシャルオリンピックス日本・長野
理事長 伊澤喜久子 さん



スペシャルオリンピックスは、世界中でいつでもどこでも活動しています。スペシャルオリンピックス日本・長野は、1998年、長野冬季五輪を機に設立され、2005年には冬季ワールドゲーム世界大会・長野が開催されました。

長野県内では各地で、陸上、水泳、テニス、ボーリングなど各地で16種目(夏季9冬季7)の競技(日常プログラム)が行われています。ユニファイドスポーツ®はサッカーが1チームがあります。

ユニファイドサッカーのパートナーは皆さんボランティアの方々です。ただ一緒にやるのではなく、「知的障害」という意識で関わるのではなく、仲間として一緒に考え、チームを作り上げていきます。

知的障がいのある人たちもスポーツでたくさん活躍してがんばっているの、小中学生の皆さんにはSOのことをまずは知ってもらいたいですね。地域と交流することがSOの目的でもあり、中学生になったらボランティアでパートナーとして参加してもらったり、対抗試合をしたり、養護学校の方にも参加していただけると嬉しいです。

障がい者スポーツの大会を知ろう！

障がい者スポーツの総合国際競技大会の関係

オリンピック

デフリンピック

聴覚障害

●デフリンピックは障害当事者自身が運営しており、スタートの音や審判の声による合図を視覚的に工夫する以外、オリンピックと同じルールで運営される。

パラリンピック

障がいの種類や区分に応じてクラス分け

身体障害

知的障害

●パラリンピックは、身体障害者(視覚障害者含む)と知的障害者(一部競技)が参加できる。
●競技毎に障害の種類や程度に応じてクラス分けをしており、クラス毎にメダルを授与している。



スペシャルオリンピックス

知的障害

●スペシャルオリンピックスは、知的障害者に様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場(競技会)を提供するもの。
●記録ではなく、日常的・継続的なスポーツ活動を通じて、自己を成長させることを重視している。
●スペシャルオリンピックスには、頑張った全てのアスリートを称え、全員を表彰するといった特徴がある。



文部科学省(2015)「地域における障害者スポーツの普及促進について(中間整理)」：参考資料」より改変

日本障がい者スポーツ協会主催の全国大会

- ◎全国障害者スポーツ大会*
- ◎ジャパンパラ競技大会*
- ◎内閣総理大臣杯争奪日本車椅子バスケットボール選手権大会
- ◎文部科学大臣杯争奪日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会
- ◎全国身体障害者スキー大会
- ◎大分国際車いすマラソン大会
- ◎全国車いす駅伝競走大会
- ◎国際盲人マラソンかすみがうら大会

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
(Japanese Para-Sports Association)

わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織。全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ競技大会をはじめとする全国規模の障がい者のスポーツ大会を開催・奨励しています。そのほか、国際パラリンピック委員会(IPC)、アジアパラリンピック委員会(APC)及びフェスピック連盟、国際障がい別競技団体等との連絡・調整を図り、これらの事業への参画を行っています。
ホームページ <http://www.jsad.or.jp>

*全国障害者スポーツ大会

障がいのある選手が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とした障害者スポーツの全国的な祭典です。

毎年開催される国民体育大会終了後に、その開催都道府県で引き続き行われます。2027年には、長野県で第27回全国障害者スポーツ大会(冬季大会・本大会)が開催される予定です。



*ジャパンパラ競技大会

日本国内最高峰のパラスポーツ競技大会です。パラリンピックや世界選手権をめざすトップレベルの選手のための大会と位置づけられ、大会の記録は国際の公式記録としても認定される、日本国内では数少ない国際公認大会です。

陸上競技、水泳、ゴールボール、ウィルチェアーラグビー、ボッチャ、アルペンスキーの6競技大会を開催しています。

協力：東御市「『みんなの健康×スポーツ』実行委員会」、公益財団法人身体教育医学研究所、社会福祉法人東御市社会福祉協議会、長野県ボッチャ協会、公益社団法人 スペシャルオリンピックス日本・長野

参考文献：「大きな写真でよくわかる障がい者スポーツ大百科(1)～(4)」大熊廣明著(六耀社)、『オリンピック・パラリンピック大事典』和田浩一監修(金の星社)

発行日：平成30年2月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130

E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>



福祉の心
ふっころ
長野県社会福祉協議会
公式キャラクター

